

【教材・教具解説シート】

教材・教具名	時計
教科（分類）	数学科（時刻・時間）
<p>教材・教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="152 443 517 715" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>既存の時計のプリントをラミネートし、針も同様に切ってラミネートし、中心は押しピンで固定した。</p> </div> <div data-bbox="340 517 1106 1098" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1039 395 1514 721" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>持ちやすさ、立体感を付けるために百円均一の発泡スチロールを土台とした。針が接する面には厚紙をかませ（穴あけパンチで穴を開けたもの2つ分）、針の動きがスムーズになるようにしている。</p> </div> <div data-bbox="1205 593 1863 1088" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1662 379 2033 593" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>時刻表を使用した学習において、逆算や時の経過の計算の祭に、針を回して考えていた。</p> </div> <div data-bbox="1774 641 2042 1082" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>数学の時間以外でも休憩時間などに針を動かして時刻を確認する様子が見られるようになった。</p> </div> </div>	
<p>1 児童生徒の実態 時刻の読み取りはできるが、「30分後」や「1時間前」など時間の経過についてイメージすることが難しい生徒を想定し作成した。物をぞんざいに扱ってしまいがちな面があり、自分で時計を作製することで、物を大切に扱う態度も意識させたいと考えた。</p>	
<p>2 期待する効果、伸ばしたい力 実際に自分で時計の針を動かし確認することで、時間の経過を実感し、見通しをもつことができる。また、普段の生活の中で、時間の経過と時刻との突合せができるようになり、根拠をもって活動をするにつなげていく。</p>	